

グローバル共生学講座

グローバル共生学講座では、世界のさまざまな国と地域の「現場」における、対立と共生をめぐるローカルな実践に注目しつつ、グローバルな視点から共生のあり方を探究する。具体的には、開発援助、保健医療と教育、移民、ジェンダー、紛争、災害、コミュニティの再構築といった、人類が直面する問題について、ローカル・ナショナル・グローバルな要因のからまりあいを解明することによって、問題解決の方法を構想する共生学を構築する。

<国際協力学>

人びとの健康や教育、貧困問題などは、グローバル社会共通の開発課題である。近年、大規模な自然災害や武力紛争が多発し、難民や避難民も増えている。そのため、国際機関、政府機関、NGOなどが、開発協力や人道支援を実施してきた。国際協力学分野では、多文化共生社会の視点から、このような幅広い課題や対象を捉え、人びとの暮らしに寄り添いながら、教育学、国際保健医療学、人類学などに基づく学際的な研究を進めている。発展途上国など国外だけではなく、日本国内の外国人に対する教育や保健医療問題にも取り組んでいる。フィールドでの実践経験とアカデミックな理論を有機的に統合することにより、生活に直結した生き生きとした学問の場をつくりたい。研究能力を高め、科学の言葉で語り合う「知のワンダーランド」を志向する皆さんの参加を望んでいる。

<多文化共生学>

多文化共生とは、異なる言語集団や民族が一つの国民国家の中で共生することを意味する言葉と理解されることが多い。しかし、現代社会では、ジェンダーやセクシュアリティ、健康と身体、言語や文化における差異が複雑に絡み合っている。異なる社会カテゴリーや文化的背景を異にする人々が分断や対立を回避し、豊かに共存していくためには、植民地主義や国民国家、その他の身体や人口の統治のための近代的な装置を批判的に再考する必要がある。この分野では、現代史学、医療人類学、法人類学、ジェンダー研究を基盤としつつ、さまざまな差異が交差する世界の状況を把握し、新たな共生を実現するための課題に取り組んでいる。研究テーマは、ジェンダーやセクシュアリティをめぐる政治、女性運動、移民や国際的人口移動、医療技術の発展や普及にともなう身体や生の変容を主とし、対象とする地域は、東・東南アジアから世界のさまざまな地域に広がっている。

<地域創生論>

地域創生論の目的は、地域社会を取り巻くグローバル化の潮流やさまざまな制度のもとで、健康、福祉、食、環境、災害などにかかわる知識や実践がどのような影響を受け、さらに人びとが地域固有の条件のもとで、それをどのように主体的に再編成していこうとしているのかについて研究することである。地域社会における、こうした知識や実践の再編成の多様なあり方を発見することによって、あらたな気づきが生みだされ、全体社会の変革につながっていくこともありうる。本研究分野では、こうした地域社会とより大きな社会を橋渡しする研究者や実践者（NPO・NGO や国際機関をふくむ公共機関）を積極的に育成したい。そのため、理論的方法論的な問題関心を深めるとともに、それを実証するためのフィールドワークを行うこと、そしてフィールドワークを効果的に行うための言語運用能力を身に付けることが推奨される。

<コンフリクトと共生>

共生という主題は、個体間と集団間のさまざまなコンフリクト（紛争、葛藤、摩擦、利害対立）と表裏一体の関係にある。コンフリクトを考察することなしに、共生を理解することはできない。人類（ヒト）は、霊長類のなかでもとりわけ激しいコンフリクトを経験する生物であり、同種内で、および他の生物種に対して、大量の殺戮を行うことがある。こうした現象を理解するためには、広くヒト全体を見渡す視点と、霊長類との比較の視点が必要である。本研究分野は、理論的には霊長類行動学と人類学の研究に基づきつつ、「コンフリクトと共生」という課題を考察し、種内と種間の実践的な共生のあり方を模索することを目的とする。